

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

一人ひとりの夢と志を育み、よりよい未来社会を創り出す学校	
1	「進取・創造・敬愛」の校訓のもと、早くから興味・関心の現れやすい「4つの分野(ものづくり<理工>、スポーツ、言語、芸術<美術・デザイン>)」の才能を6年間の計画的・継続的な一貫教育で伸ばし、「大阪の発展を担う将来のスペシャリスト」を育成する。
2	安全・安心な教育環境のもと、専門性・多様性・交流性・一貫性を生かしたカリキュラム・マネジメントを通して、確かな学力や高め合う集団、自主自立の習慣を育成し、学びと育ちの質を高めながら一人ひとりの個性を磨き、生きる力の伸長をめざす。
3	併設の咲くやこの花高等学校（以降、高等学校）や地域社会、専門機関等の様々な人々との連携・協働を通して、一人ひとりのキャリア発達を促すとともに、豊かな人権感覚を育み、夢と志の実現に向けて、新たな価値を創造する意欲や態度を培う。

2 中期的目標

1. 特色ある教育環境のもと、学びと育ちの質を高める	
(1) 確かな学力を育成する	ア 校内研究授業や授業アンケート（1学期・2学期）を活用し、「主体的・対話的で深い学び」や「教科等横断的な学び」「言語活動の充実」等の視点を生かした授業・単元の工夫・改善を進めていく。 イ ICT 環境を充実させるとともに、1人1台端末をはじめ、ICT 機器やデジタル教材を有効に活用した授業を実施する。また、ICT を活用した「個別最適な学び」や「協働的な学び」に関する研修を行う。 ウ 学力調査（全国学力・学習状況調査、大阪府チャレンジテスト、学力推移調査）を活用し、生徒の学力実態や学習の状況を把握することで、授業改善を進め、一人ひとりの資質・能力のよりいっそうの定着を図る。 ※（生徒対象）学校教育自己診断、「学校のさまざまな取組で、考える力や自主性をのばすことができる」の項目で、肯定的な回答の割合を令和8年度には90%を維持する。（R3：88% R4：90% R5：90%）
(2) 高め合う集団を育成する	ア 学校行事や委員会活動への取組を通して、集団の中で役割を分担しながら、チームワークやリーダーシップについて学ぶ機会を設定する。 イ 学級活動や分野別学習等の場で、一人ひとりの個性や専門性を生かしながら、交流や協働を促す教育活動を充実させる。 ウ 教科学習において、ペアやグループでの学習活動を取り入れ、自分たちの考えを伝えたり、深めたりする機会を充実させる。 ※（生徒対象）学校教育自己診断、「私は、学級活動や学校行事を通して、楽しく信頼できる仲間づくりを心がけている」の項目で、肯定的な回答の割合を令和8年度には90%以上にする。（R3：86% R4：86% R5：87%）
(3) 自主自立の習慣を育成する	ア 年度当初に、望ましい学習規律や自主的な学習習慣を身につけさせる指導を行う。また学期ごとに学習計画・生活習慣を確認する取組を進める。 イ 「挨拶をする」「服装を正す」「時間を守る」について、全教職員で指導し、ルールやマナーを進んで守る集団を育成する。 ウ 図書館を活用した教育や図書委員会の活動、朝の読書活動を通して、本に親しむ態度を育む。 ※（保護者対象）学校教育自己診断、「学校は生徒がルールを守るように適切な指導をしている」の項目で、肯定的な回答の割合を令和8年度には95%にする。（R3：92% R4：93% R5：94%） ※（生徒対象）学校教育自己診断、「私は、授業の宿題や課題に対して積極的に取り組んでいる」の項目で、肯定的な回答の割合を令和8年度には90%以上にする。（R3：83% R4：84% R5：83%）
2. 一人ひとりの夢と志を育み、個性と才能を養う	
(1) 分野別学習の充実を図り、高等学校・総合学科の系列学習につなげる	ア 日常の分野別学習とともに、分野別体験活動(修学<研修>旅行) や文化発表会等での取組を通して、分野の専門性をさらに伸ばしていく。 イ 4つの分野の学習に直接結びついた部活動を通して、分野に関する基礎的内容を定着させるとともに、発展的内容にもチャレンジさせる。 ※（生徒対象）学校教育自己診断、「私は、高等学校での系列学習につながるような分野別学習に積極的に取り組んでいる」の項目で、肯定的な回答の割合を令和8年度には90%以上にする。（R3：77% R4：86% R5：88%） ※（生徒対象）学校教育自己診断、「学校は、特色ある分野別学習や部活動などの教育活動がある」の項目で、肯定的な回答の割合を令和8年度には95%にする。（R3：95% R4：95% R5：95%）
(2) 高等学校と連携し、6年間を見通した体系的、継続的なキャリア教育を行う	ア 高等学校と連携した教育や高校生との交流の中で、生徒が将来の進路や職業について考える機会を設け、基礎的・汎用的能力を育成する。 イ 進路に関する講演や系列別ガイダンス、職業体験学習を通して、主体的に進路を選択しようとする意志や態度を養う。 ※全国学力・学習状況調査において「将来の夢や目標を持っていますか」の項目で、肯定的な回答の割合を令和8年度には80%以上にする。（R3：76% R4：69% R5：75%） ※（生徒対象）学校教育自己診断、「将来の進路や職業について考えている」の項目で、肯定的な回答の割合を令和8年度には75%以上を維持する。（R3：63% R4：73% R5：76%）
3. 安全で、安心して学べる学校づくりに努める	
(1) 生徒・保護者が安心できる、安全な教育環境づくりに努める	ア いじめについてのアンケートや教育相談等を通して、いじめの未然防止、早期発見、組織対応に努める。心理テストの分析結果に基づくアセスメント等を通して支援が必要な生徒を的確に把握する。 イ 自然災害や犯罪、薬物乱用、交通安全、情報モラル等の視点から生徒の危機管理能力を高める。 ※（生徒対象）学校教育自己診断、「先生は、いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の項目で、肯定的な回答の割合を令和8年度には90%以上を維持する。（R3：― R4：90% R5：92%）
(2) 健康や体力を保持・増進する力を育成する	ア 保健委員会や体育委員会の活動・給食指導を通して、健康や体力の保持・増進に関する生徒の意識を高める。 イ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携し、生徒の心のケアを図り、不登校の未然防止に努める。 ※（保護者対象）学校教育自己診断、「学校は健康管理の指導に努めている」の項目で、肯定的な回答の割合を令和8年度には90%以上にする。（R3：83% R4：84% R5：86%）
(3) 人権教育を推進し、公平で公正な社会を実現しようとする意欲を培う	

府立咲くやこの花中学校

ア 様々な教育活動において、生徒の人権意識を高めるための指導を行う。高等学校とも連携し、人権教育に関する研修を行う。	
イ 3年間を見通した上で、人権的な課題をテーマにした総合的な学習を実施する。	
※（保護者対象）学校教育自己診断、「学校は相手を思いやり人権を大切にする生徒の育成に努めている」の項目で、肯定的な回答の割合を令和8年度には90%以上にする。（R3：87% R4：88% R5：89%）	
4 組織力を向上させ、開かれた学校づくりを進める	
（1）働き方改革を推進する	
ア 業務の効率化を進め、教職員の長時間労働を縮減していくとともに、高いコンプライアンス意識に基づいた、働きやすい職場環境づくりに努める。	
イ 産業医や学校医からの助言をふまえて、生徒や教職員の健康・安全に配慮した職場環境づくりに努める。	
※時間外勤務月 80 時間以上の教職員の割合を令和8年度には10%以下を維持する。（R3：12% R4：9% R5：6%）	
（2）家庭、地域、専門機関と連携した教育活動を行う	
ア 授業参観（各教科・分野別学習）や学期末懇談会、学校行事の見学等の機会を通して、保護者の学校教育への理解を促す。	
イ 4つの分野で、全国レベルのコンクールへの出場や出展をはじめ、外部の専門機関や企業等と連携した活動を実施する。	
ウ 地域の協力を得ながら、社会と連携した貢献的な活動を実施する。	
※（保護者対象）学校教育自己診断、「学校は、雰囲気がよく生徒がいきいきと学校生活を送っている」の項目で、肯定的な回答の割合を令和8年度には95%以上にする。（R3：94% R4：94% R5：94%）	
（3）情報発信・研究活動を充実させる	
ア 本校の特色や魅力、生徒の学校生活の様子について、学校ホームページやパンフレット、ポスター等を通して、積極的な情報発信や広報活動を行う。	
イ 先進的な研究を行っている学校への研究視察や校内研修を通して、教職員の職能開発を進める。	
※（生徒対象）学校教育自己診断、「咲くやこの花中学校へ入学してよかった」の項目で、肯定的な回答の割合を令和8年度には95%以上にする。（R3：— R4：91% R5：93%）	

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【保護者による回答】 26 項目の設問中、4 項目を除いて肯定的な意見の割合が 80%を超えており、本校の教育活動に対する高い満足度を維持している。保護者の「家庭では、生徒 1 人 1 台学習者用端末を効果的に活用している」の肯定的意見の割合が 71%と低めとなっている一方で、生徒の「私は、生徒 1 人 1 台学習者用端末を効果的に活用している」の肯定的意見の割合が 89%となっており、大きく乖離している。家庭学習における 1 人 1 台端末の効果的活用について検討を行う必要がある。また、「学校は、将来の進路や職業になどについて適切な指導を行っている」についても、家庭を巻き込む形でキャリア教育の推進について研究を行う必要がある。 【生徒による回答】 26 項目の設問中、3 項目を除いて肯定的な意見の割合が 80%を超えており、本校の教育活動に対する高い満足度を維持している。「先生は、各教科での学習内容や評価方法をわかりやすく説明してくれる」の肯定的意見の割合が昨年度に比べて 1.8 ポイント下がっており、評価方法に関する周知の在り方の再確認が必要である。「私は、日々の学習を通して学力の向上が感じられる」の肯定的な意見の割合が 77%であるが、生徒が教育活動を通じて学力向上を実感できるよう、授業改善等に努めていきたい。また、キャリア教育の充実を通して、「私は、将来の進路や職業について考えている」の肯定的な意見の割合が更に高まるよう、中高 6 年間を見据えたキャリア教育の推進について、高等学校と連携しながら検討を進めていきたい。	第 1 回(令和 6 年 6 月 20 日) ・中高一貫校の特色を生かし、中学校と高等学校が一体となった連携の強化に努めていただきたい。 ・学校行事をはじめとする様々な教育活動において、安全で安心な学校づくりに取り組んでいただきたい。 ・HP をはじめとする広報活動について、今年度時間をかけて、わかりやすさの追求に努めていただきたい。 第 2 回（令和 5 年 10 月 25 日） ・スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの活用状況について、今後も、多様な生徒が在籍していることを踏まえ、引き続きいねいな対応をしていただきたい。 ・生徒が、部活動をはじめ、中学校では各分野で、高等学校では各学科で活躍をしている様子について、今後も、積極的にアピールをしながら、外部へも発信をしていただきたい。 ・大阪府へ移管、府立学校として 3 年めを迎えた現状を踏まえ、今後も更なる特色ある学校づくりをめざしていただきたい。特に、中・高ともに生徒が、外部における作品やコンクール関連等の取り組みに、積極的に応募参加ができるような体制づくりに取り組んでいただきたい。 第 3 回(令和 7 年 2 月 5 日) ・小学校での ICT 教育を踏まえ、本校の ICT 教育におけるさらなる工夫や改善を図っていただきたい。 ・キャリア教育について、その意義と目的について生徒の理解が深まるよう、内容の再検討に取り組んでいただきたい。 ・地域に親しまれる学校をめざし、開かれた学校づくりを基本とした学校経営に取り組んでいただきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容		評価指標[R5 年度値]	自己評価
1 特色ある教育環境のもと、学びと育ちの質を高める	（1）確かな学力を育成する	ア	校内研究授業や授業アンケート（1 学期・2 学期）を活用し、「主体的・対話的で深い学び」や「教科等横断的な学び」「言語活動の充実」等の視点を生かした授業・単元の工夫・改善を進めていく。	ア 主体的・対話的で深い学びの視点を生かした校内研究授業を全員の教員が年間 1 回以上実施する。 [R5 全員実施]	ア すべての教員が 1 回実施した。どの授業においても、教材や学習活動等において創意・工夫が見られた、授業実施後はそれぞれの課題に基づき授業改善に取り組んでいる。（○）
		イ	ICT 環境を充実させるとともに、1 人 1 台端末をはじめ、ICT 機器やデジタル教材を有効に活用した授業を実施する。また、ICT を活用した「個別最適な学び」や「協働的な学び」に関する研修を行う。	イ（生徒対象）学校教育自己診断、「私は、1 人 1 台端末を効果的に活用している」の項目で、肯定的な回答の割合を 90%以上にする。 [R5 87%]	イ 日常的に、ICT（1 人 1 台端末・電子黒板等）を活用した授業を実施している。生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は 89%であった。（△）
		ウ	学力調査（全国学力・学習状況調査、大阪府チャレンジテスト、学力推移調査）などを活	ウ（生徒対象）学校教育自己診断、「日々の学習を通して学	ウ 年に 2 回（4 月・9 月）、中高一貫校学力推移調査を行い、生徒に学力に関する推移を確認さ

府立咲くやこの花中学校

		用し、生徒の学力実態や学習の状況を把握することで、授業改善を進め、基礎学力、言語能力のよりいっそうの定着を図る。	力の向上が感じられる」の項目で、肯定的な回答の割合を 80%以上にする。 [R5 77%]	せた。11 月 14 日（木）に、教育産業と連携し、教員対象の学力推移調査の分析会を実施した。生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は 77%であった。（△）
（2）高め合う集団を育成する	ア	学校行事や委員会活動への取組を通して、集団の中で役割を分担しながら、チームワークやリーダーシップについて学ぶ機会を設定する。	ア 中高合同授業を 1 回以上設定する。 [R5 1 回]	ア 10～11 月に、高等学校の総合学科 1 年生の生徒とともに「大阪万博を盛りあげるために中高生の私たちができること」をテーマに探究活動を 4 回実施した。また、1 月 15 日に、高等学校の演劇科 3 年生の生徒が中学 2 年生を対象にワークショップ型授業を実施した。（◎）
	イ	学級活動や分野別学習、部活動等の場で、一人ひとりの個性や専門性を生かしながら、交流や協働を促す教育活動を充実させる。	イ 全国学力・学習状況調査において「自分には、よいところがあると思いますか」の項目で、肯定的な回答の割合について 80%以上を維持する。 [R5 82%]	イ R6 全国学力・学習状況調査において、肯定的な回答は 85%であった。（○）
	ウ	教科学習において、ペアやグループでの学習活動を取り入れ、自分たちの考えを伝えたり、深めたりする機会を充実させる。	ウ 全国学力・学習状況調査において「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」の項目で、肯定的な回答の割合を 85%以上にする。 [R5 84%]	ウ R6 全国学力・学習状況調査において肯定的な回答は 93%であった。全ての教科において、ペアワークやグループワークが取り入れられ、対話的な学習が増々充実してきている。（◎）
	ア	年度当初に、望ましい学習規律や自主的な学習習慣を身につけさせる指導を行う。また学期ごとに学習計画・生活習慣を確認する取組を進める。	ア （生徒対象）学校教育自己診断、「日々の学校生活を通して、正しい学習態度が身につくよう努力している」の項目で、肯定的な回答の割合を 85%以上にする。 [R5 82%]	ア 4 月当初にプリント「学びの型」を全生徒に配付した。またプリント「授業者スキル」「担任スキル」を教員で共有し、生徒の学習習慣の定着を図った。生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は 83%であった。（△）
（3）自主自立の習慣を育成する	イ	「挨拶をする」「服装を正す」「時間を守る」について、全教職員で指導し、ルールやマナーを進んで守る集団を育成する。	イ （生徒対象）学校教育自己診断、「学校のルールをすすんで守るように心がけている。」の項目で、肯定的な回答の割合について 86%以上を維持する。 [R5 88%]	イ 登校時、正門の前で、高等学校生活指導部とともに遅刻や服装の指導、挨拶指導を行った。併せて月に 1 度、月曜日の中学集会において、頭髮・服装検査を実施した。生徒指導部を中心に「校則の見直し」を進めている。生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は 90%であった。（○）
	ウ	図書館を活用した教育や図書委員会の活動、朝の読書活動を通して、本に親しむ態度を育む。	ウ 全国学力・学習状況調査において「読書は好きですか」の項目で、肯定的な回答の割合を令和 7 年度には 75%以上にする。 [R5 67%]	ウ 朝の読書活動、図書委員会による啓発活動を実施している。R6 全国学力・学習状況調査において、「読書は好きですか」という質問が削除されたため、指標の確認はできず。12 月 20 日（金）に中学校ビブリオバトル決勝大会及び中高図書委員会合同企画である「ブックトーク」が開催され、本に親しむ態度の育成を図った。（○）

府立咲くやこの花中学校

2 一人ひとりの夢と志を育み、個性と才能を養う	（１）分野別学習の充実を図り、高等学校・総合学科の系列学習につなげる （２）高等学校と連携し、６年間を見通した体系的、継続的なキャリア教育を行う	ア 日常の分野別学習とともに、分野別体験活動（修学<研修>旅行）や文化発表会等での取組を通して、分野の専門性をさらに伸ばしていく。 イ ４つの分野の学習に直接結びついた部活動を通して、分野に関する基礎的内容を定着させるとともに、発展的内容にもチャレンジさせる。 ア 高等学校と連携した教育や高校生との交流の中で、生徒が将来の進路や職業について考える機会を設け、基礎的・汎用的能力を育成する。 イ 進路に関する講演や系列別ガイダンス、職業体験学習を通して、主体的に進路を選択しようとする意志や態度を養う。	ア （生徒対象）学校教育自己診断、「高校での系列学習につながるよう分野学習に積極的に取り組んでいる」の項目で、肯定的な回答の割合を88%以上にする。 [R5 88%] イ （生徒対象）学校教育自己診断、「私は、部活動に積極的に取り組んでいる」の項目で、肯定的な回答の割合を95%以上にする。 [R5 92%] ア 高校生や卒業生による進路に関する講話を３回以上実施する。 [R5 2回] イ 外部の専門機関と連携したキャリア教育を３年生で３回以上実施する。 [R5 3回]	ア 木曜日の５・６時間目、高等学校の協力を得て、計画通りに分野別学習を実施している。生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は89%であった。（○） イ 計画通りに部活動を実施することができた。生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は93%であった。（△） ア ６月６日（木）、美術・デザイン分野（１年生）の分野別学習において、本校を卒業した大学生による進路講話を実施した。３月７日（金）に高校３年生による進路講話を実施した。（△） イ ３年生について、外部の専門機関と連携して実施したキャリア教育は次の通り。 ○９月10日（火）教育産業「働くことと幸せ」 ○９月25日（水）自動車産業「地球温暖化のない社会へ」（△）
3 安全で、安心して学べる学校づくりに努める	（１）生徒・保護者が安心できる、安全な教育環境づくりに努める （２）健康や体力を保持・増進する力を育成する （３）人権教育を推進し、公平で公正な社会を実現しようとする意欲を培う	ア いじめについてのアンケートや心理テスト、教育相談等を通して、いじめの未然防止、早期発見、組織対応に努める。 イ 自然災害や犯罪、薬物乱用、交通安全、情報モラル等の視点から生徒の危機管理能力を高める。 ア 保健委員会や体育委員会の活動・給食指導を通して、健康や体力の保持・増進に関する生徒の意識を高める。 イ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携し、生徒の心のケアを図り、不登校の未然防止に努める。 ア 様々な教育活動において、生徒の人権意識を高めるための指導を行う。高等学校とも連携し、人権教育に関する研修を行う。 イ ３年間を見通した上で、人権的な課題をテーマにした総合的な学習を実施する。	ア 心理テストを全学年で２回以上実施し、分析結果を指導に生かす。 [R5 2回] イ （生徒対象）学校教育自己診断、「私は、命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目で、肯定的な回答の割合を90%以上にする。 [R5 89%] ア （生徒対象）学校教育自己診断、「私は、自分の健康管理を心がけている」の項目で、肯定的な回答の割合を83%以上にする。 [R5 83%] イ SC・SSW と連携した校内研修会を２回以上実施する。 [R5 2回] ア （生徒対象）学校教育自己診断、「私は、相手を思いやり人権を大切にすることができている」の項目で、肯定的な回答の割合を90%以上にする。 [R5 87%] イ 人権をテーマとする総合的な学習を２回以上実施する。 [R5 2回]	ア ６月と11月に hyper-QU を実施した。結果については、教職員全体で共有した。また、いじめアンケートを各学期に１回ずつ、計３回実施した。（○） イ 10月11日（金）に、学校薬剤師による薬物乱用教室を実施した（２年生）。生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は90%であった。（○） ア 10月15日（火）に、栄養教諭による食育指導（食をテーマにした講演）を実施した。また、10月31日（木）にスポーツ分野の生徒を対象に、栄養教諭と分野の授業を担当する中高教員との共同授業を実施した。生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は85%であった。（○） イ 10月11日（金）に「コミュニケーション不足打開策に向けた取り組み」をテーマにSCを講師として教員研修を実施した。また、1月10日（金）に「不登校の疑いに向けた生徒（保護者）へのアプローチについて」をテーマにSSWを講師として教員研修を実施した。（○） ア 生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は87%であった。（△） イ ９月11日（水）に１・２年生合同で人権教育学習「いじめって何？」を実施した。また、10月22日（火）に生徒・保護者・教職員合同で「防災と人権問題について」をテーマに人権講演会を実施した。（○）

府立咲くやこの花中学校

4 組織力を向上させ、開かれた学校づくりを進める	(1) 働き方改革を推進する	ア 業務の効率化を進め、教職員の長時間労働を縮減していくとともに、高いコンプライアンス意識に基づいた、働きやすい職場環境づくりに努める。 イ 産業医や学校医からの助言をふまえて、生徒や教職員の健康・安全に配慮した職場環境づくりに努める。	ア 時間外勤務月 80 時間以上の職員の割合について 8 % 以下を維持する。 [R 5 6.1%] イ (保護者対象) 学校教育自己診断、「学校は、健康管理への指導に努めている」の項目で、肯定的な回答の割合について 85% 以上を維持する。 [R 5 86%]	ア 様々な取り組み(ノークラブデー、一斉退庁日、こまめな声かけ等)により、時間外在校等時間月 80 時間以上の職員の割合は 1.3% となっている。(◎) イ 月 1 回、学校医より保健管理、健康管理、健康診断の事後措置等、助言や指導を行っていた。保護者対象の学校教育自己診断において肯定的回答は 88% であった。(○)
	(2) 家庭、地域、専門機関と連携した教育活動を行う	ア 授業参観(各教科・分野別学習)や学期末懇談会、学校行事の見学等の機会を通して、保護者の学校教育への理解を促す。 イ 4 つの分野で、全国レベルのコンクールへの出場や出展をはじめ、外部の専門機関や企業等と連携した活動を実施する。 ウ 地域の協力を得ながら、社会と連携した貢献的な活動を実施する。	ア (保護者対象) 学校教育自己診断、「学校の授業参観や学校行事に参加して、子どもの様子が把握できている」の項目で、肯定的な回答の割合について 80% 以上を維持する。 [R 5 83%] イ 外部の機関と連携した教育活動を 5 回以上実施する [R 5 3 回] ウ 清掃活動や社会啓発活動に 1 回以上取り組む。 [R 5 1 回]	ア 6 月 4 日(火)の中高合同体育祭、7 月 1 日(月)の百人一首大会、10 月 25 日(金)の文化発表会等、保護者に参観いただいた。また、11 月 21 日(木)に、分野別授業参観・総合学科説明会を実施した。保護者対象の学校教育自己診断において肯定的回答は 84% であった。(○) イ 教育産業や企業、学校医等の外部機関と連携した教育活動を 6 回実施した。(○) ウ こころの再生府民運動の一環として「朝のあいさつ運動」を実施した。(○)
	(3) 情報発信・研究活動を充実させる	ア 本校の特色や魅力、生徒の学校生活の様子について、学校ホームページやパンフレット、ポスター等を通して、積極的な情報発信や広報活動を行う。 イ 先進的な研究を行っている学校への研究視察や校内研修を通して、教職員の職能開発を進める。	ア (保護者対象) 学校教育自己診断、「学校は、ホームページ・プリントなどで情報をよく流している」の項目で、肯定的な回答の割合について 95% 以上を維持する。 [R 5 95%] イ 先進的な研究校への視察を 2 回以上実施する。 [R 5 3 回]	ア 保護者対象の学校教育自己診断において肯定的回答は 95% であった。(○) イ 研究視察を 3 回実施した。報告書をもとに全教員で情報共有した。(○)